

目指す学校像	○笑顔(スマイル)があふれる学校 ○保護者、地域とともにある学校 ○勤めてよかったと思える学校
--------	---

重点目標	1 教育DXに向けた「シン・GIGAスクール構想」の実践及び「よい授業」づくり 2 生徒指導・教育相談の充実を基盤に、安心・安全に過ごせる学校づくりと確実な管理 3 学校運営協議会(コミュニティ・スクール)を中核とした開かれた学校づくりの実現 4 使命感をもち、生徒・保護者・地域に信頼される教職員の育成
------	---

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、
 方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価							学校運営協議会による評価		
年 度 目 標				年 度 評 価			実施日令和5年2月8日		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	(現状) ○R4全国学力・学習状況調査(国・数・理)は、全て、全国・県平均と比べ、概ね良好である。 ○R4市学習状況調査(国・数・社・理)において、全学年、市平均をやや下回った。「授業内容が分かる」と肯定的に回答した生徒の割合は、市平均をやや上回っている。 (課題) ○令和4年度全国学力・学習状況調査から、国語の「話すこと、読むこと」に無回答率が他と比べやや高いなど、各教科の分野ごとに分析し、課題を克服することが必要である。 ○市の学習状況調査から、家庭学習の取り組みが市平均を下回り、興味・関心を高めるようにすることが必要である。	・一人一台端末を活用した個別最適な学びの実現及び協働的・探究的な学びの実現 ・ICT機器を活用した、わかる授業の工夫改善と個別最適な支援の実践	①ICTを活用し「教える」から「学習者が主体的に学ぶ」授業を実践する。 ②スタディ・サブリやドリルパーク、デジタル教科書などデジタル教材を活用し、更に家庭学習の充実を図り、基礎学力の定着を図る。	①全ての教科において、一人一台端末やその他の機器を活用した授業が実施できたか。 ②学校評価(生徒)の「授業は、分かりやすく楽しい」等において肯定的な回答を8割以上に出来たか。					
2	(現状) ○R4市学習状況調査において「学校に行くのが楽しい」の項目で生徒の肯定的な回答の割合は、9割を超え、市平均も上回った。また、規範意識の項目についても同様に市平均をやや上回っている。 ○令和4年度の学校評価(生徒)の「先生方は、相談しやすく適切に対応している」等において生徒の肯定的な回答が8割を大きく超えた。 (課題) ○生徒一人ひとりに寄り添いながら組織的な支援体制を継続しているが、複雑な家庭環境や保護者の多様性もあり、より専門知識や支援体制の構築が求められる。 ○防災・防犯に関する生徒の意識調査では、全学年9割を超えているが、学年によって市平均を下回っている。	・いじめ防止や不登校等、未然の防止、早期発見のための校内体制の実現 ・安心安全な学校施設や環境の維持管理 ・防災・防犯に関する訓練の実施	①望ましい授業環境を確立するための4つの行動目標を推進する。 ②生徒指導部会・教育相談部会の定期的な実施や学期の始めや終わりに、拡大教育相談部会を計画し、特別な支援や配慮を要する生徒の共通理解を図る。 ③本校の実態に合わせたテーマで指導者を招聘し、教育相談の手法や見直しを図る校内研修会を実施する。	①学校評価(生徒)の「先生方は、相談しやすく適切に対応している」等においては肯定的な回答が8割以上に出来たか。 ②学校評価(保護者)の「先生方は、相談しやすく適切に対応している」等においては肯定的な回答が8割以上に出来たか。					
3	(現状) ○昨年度、学校運営協議会を年3回実施し、目指す子どもの姿について熟議することが出来た。 ○コロナ禍において保護者や地域に対して制限された行事や学校公開となった。 ○PTA組織の取組が、本校の教育活動の後押しとなり生徒の安心安全につながっている。 (課題) ○コロナ制限の緩和と共に、今年度の学校運営協議会において目指す子どもの姿の実現に向け、二つの区にまたがる家庭・地域の共有を図り、その実現に向けた方策を定め行動に踏み出す。 ○コミュニティ・スクールの様子や教育活動の積極的な発信。	・学校運営協議会を通じた地域、保護者との協働の実践 ・コミュニティ・スクールの様子や教育活動の積極的な情報発信	①学校運営協議会を年3回以上実施し、生徒・保護者・地域が協働できる場面を実現する。 ②学校HP等をより見やすく、最新情報を積極的に配信する。	①市生活習慣に関する調査(生徒)の項目で地域とのかかわりに関する肯定的な回答が6割以上に出来たか。 ②学校評価(保護者)項目「学校は、授業や行事等の教育活動の様子を伝えている」において肯定的な回答を8割以上に出来たか。					
4	(現状) ○「全ての子どもたちの可能性を引き出す個別最適な学び」を設定し学校課題研修を進める。 ○エバンジェリストを中心に、ICT活用に係る教職員研修を実施してきた。 ○各自月2回以上の定時退勤日を計画し、働き方改革への意識を高めてきた。 (課題) ○教職員の心身の健康を維持すると共に、時間外在校時間を短縮させることが課題である。 ○ICTの活用や知識には、教職員によって差が見られることから、研修を深め、共有することが必要である。	・健康で明るく、互いに磨き合える教職員のチームワークの向上	①テキストや事例集を活用し、服務や教職員事故に関する校内研修や服務に関する振り返りアンケートを実施し、意識を高める。 ②月2回以上の定時退勤日の実施。 ③職員とのコミュニケーションを大切に、取組状況や課題などを把握し、認め・称賛・感謝し、助言や支援する。 ④教員による見合い授業を実施し、意見交換を行うことで授業力の向上やICT機器の活用の仕方を深める。 ⑤学年主任を中心に連携・協力体制を充実させ、組織的な指導・支援体制を構築する。	①教職員事故防止に向けた研修会を年3回以上実施できたか。 ②教職員の月2回以上の定時退勤率を8割以上に出来たか。 ③教職員による見合い授業の実施を年2回以上出来たか。 ④学校評価(教職員)における運営組織に関する項目において、肯定的な回答を8割以上に出来たか。					